

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局



(43) 国際公開日
2005 年 9 月 9 日 (09.09.2005)

PCT

(10) 国際公開番号
WO 2005/083673 A1

- (51) 国際特許分類⁷: G10B 3/12, G10C 3/12, G10H 1/34
- (21) 国際出願番号: PCT/JP2005/002480
- (22) 国際出願日: 2005 年 2 月 17 日 (17.02.2005)
- (25) 国際出願の言語: 日本語
- (26) 国際公開の言語: 日本語
- (30) 優先権データ:
特願2004-057892 2004 年 3 月 2 日 (02.03.2004) JP
- (71) 出願人 (米国を除く全ての指定国について): 株式会社河合楽器製作所 (KABUSHIKI KAISHA KAWAI GAKKI SEISAKUSHO) [JP/JP]; 〒4308665 静岡県浜松市寺島町 2 0 0 番地 Shizuoka (JP).

市寺島町 2 0 0 番地 株式会社河合楽器製作所内
Shizuoka (JP).

- (74) 代理人: 高橋 友雄 (TAKAHASHI, Tomoo); 〒1080014
東京都港区芝 4 丁目 1 1 番 5 号 MS ビル 5 階 Tokyo
(JP).

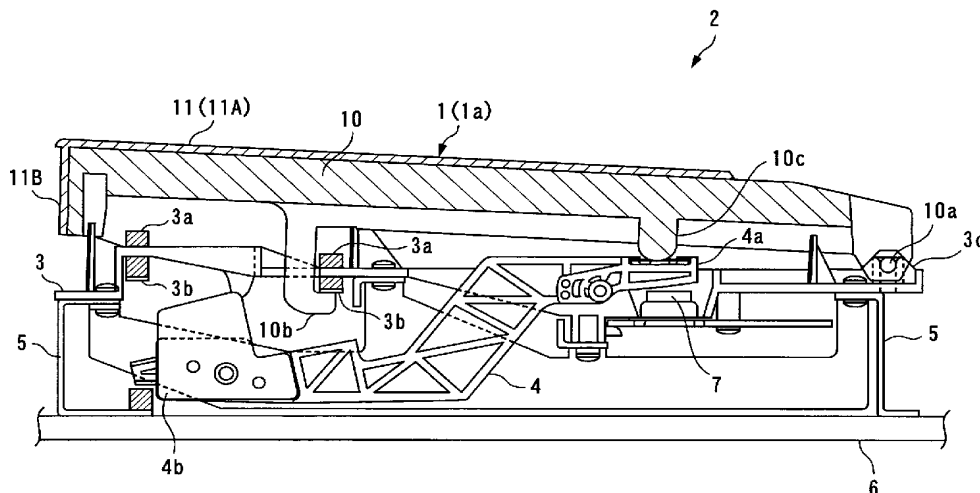
- (81) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, HR, HU, ID, IL, IN, IS, KE, KG, KP, KR, KZ, LC, LK, LR, LS, LT, LU, LV, MA, MD, MG, MK, MN, MW, MX, MZ, NA, NI, NO, NZ, OM, PG, PH, PL, PT, RO, RU, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, SY, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, YU, ZA, ZM, ZW.

- (84) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LS, MW, MZ, NA, SD, SL, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, MD, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AT, BE,

[続葉有]

(54) Title: KEY OF KEYBOARD MUSICAL INSTRUMENT

(54) 発明の名称: 鍵盤楽器の鍵



(57) Abstract: A key of a keyboard musical instrument ensuring a good musical performance by ensuring better water absorbing property. The key (1) of an electronic piano (2) comprises a key body part (10) composed of ABS resin, and a push key part (11) having a thin plate shape and bonded to the upper surface of the key body part (10). The push key part (11) comprises a base (11b) composed of ABS resin, and hydrophilic polymer (11a) added to the base (11b) in a dispersed state. During musical performance on the electronic piano (2), sweat on the fingertip of a player is absorbed by the hydrophilic polymer (11a).

(57) 要約: より良好な吸水性を確保でき、それにより、より良好な演奏性を確保できる鍵盤楽器の鍵を提供する。電子ピアノ 2 の鍵 1 は、ABS 樹脂で構成された鍵本体部 10 と、この鍵本体部 10 の上面に接着された薄板状の押鍵部 11 とを備えている。この押鍵部 11 は、ABS 樹脂で構成されたベース 11b と、このベース 11b 内に分散した状態で添加された親水性ポリマー 11a とを備えている。電子ピアノ 2 の演奏時、演奏者の指先に生じた汗は、親水性ポリマー 11a により吸収される。

WO 2005/083673 A1



BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HU,
IE, IS, IT, LT, LU, MC, NL, PL, PT, RO, SE, SI, SK, TR),
OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, ML,
MR, NE, SN, TD, TG).

2文字コード及び他の略語については、定期発行される
各*PCT*ガゼットの巻頭に掲載されている「コードと略語
のガイダンスノート」を参照。

添付公開書類:

— 国際調査報告書

明 細 書

鍵盤楽器の鍵

技術分野

- [0001] 本発明は、合成樹脂を用いながらも、指先が演奏中に滑りにくく、良好な演奏性を有する鍵盤楽器の鍵に関する。

背景技術

- [0002] 従来、鍵盤楽器の鍵として、例えば特許文献1に記載されたものが知られている。この鍵は、水酸基を含有しないアクリレート樹脂で構成され、その内部には、多数の多孔性粒子が分散した状態で添加されている。これらの多孔性粒子は、ハイドロキシアパタイトなどで構成され、その一部が鍵の表面に露出している。鍵盤楽器の演奏中、演奏者の指先の汗は、多孔性粒子の気孔によって物理的に捕捉・吸収され、その結果、アクリレート樹脂のみで構成された鍵と比べて、指先が滑りにくくなり、良好な演奏性が確保される。

- [0003] 特許文献1:特開平3-287198号公報

発明の開示

- [0004] 上記従来の鍵盤楽器の鍵によれば、ハイドロキシアパタイトなどの多孔性粒子の気孔により、演奏者の指先の汗を物理的に捕捉・吸収するものであるもので、その吸水能力が、天然象牙を押鍵面に貼り付けた鍵と比べるとかなり低い。具体的には、天然象牙を貼り付けた鍵の吸水率が十数〜20wt%程度であるのに対して、従来の鍵の吸水率は1.5wt%に過ぎない(特許文献1の第1表のデータ)。そのため、天然象牙を貼り付けた鍵と比べると、指先が滑りやすいことで、演奏性がよくないという問題がある。
- [0005] 本発明は、上記課題を解決するためになされたもので、より良好な吸水性を確保でき、それにより、より良好な演奏性を確保できる鍵盤楽器の鍵を提供することを目的とする。
- [0006] 上記目的を達成するために、請求項1に係る鍵盤楽器の鍵は、鍵本体部と、鍵本体部の上部に設けられ、親水性ポリマーを添加した第1の合成樹脂で構成され、押

鍵するための押鍵部と、を備えることを特徴とする。

- [0007] 一般に、親水性ポリマーは、その親水基で水分を捕捉・吸収するものであるため、水分を気孔によって物理的に捕捉・吸収する多孔性粒子と比べて、より良好な吸水能力を備えていることが知られている。したがって、この鍵盤楽器の鍵によれば、押鍵部が親水性ポリマーを添加した第1の合成樹脂で構成されているので、多孔性粒子をアクリレート樹脂に添加した従来の鍵と比べて、より良好な吸水性を確保でき、それにより、より良好な演奏性を確保することができる。
- [0008] 請求項2に係る発明は、請求項1に記載の鍵盤楽器の鍵において、第1の合成樹脂は、アクリロニトリルブタジエンスチレン樹脂、アクリロニトリルスチレン樹脂およびアクリル樹脂の1つであることを特徴とする。
- [0009] この鍵盤楽器の鍵によれば、押鍵部が、アクリロニトリルブタジエンスチレン樹脂、アクリロニトリルスチレン樹脂およびアクリル樹脂の1つで構成されているので、良好な耐久性および加工性を確保でき、さらに、天然象牙を貼り付けた鍵に近い外観を確保することができる。その結果、高い商品性を確保できる。
- [0010] 請求項3に係る発明は、請求項1または2に記載の鍵盤楽器の鍵において、鍵本体部は、親水性ポリマーを添加していない第2の合成樹脂および木質の一方で構成され、押鍵部は、鍵本体部に接着されていることを特徴とする。
- [0011] この鍵盤楽器の鍵によれば、押鍵部を、鍵本体部と別個の部品として製作することができるので、鍵全体を1種類の合成樹脂の一体成形により製作する場合と比べて、親水性ポリマーの添加量を減らすことができ、その分、製造コストを削減することができる。また、鍵全体を、親水性ポリマーを添加した第1の合成樹脂で構成した場合、その寸法が親水性ポリマーの吸水状態に起因して伸縮することで、加工後の寸法精度を確保するのが難しくなり、その結果、雑音が生じるなどの、品質の低下を招くおそれがある。これに対して、本発明の鍵によれば、押鍵部のみを親水性ポリマーを添加した第1の合成樹脂で構成すればよいので、加工後の鍵本体部の寸法精度すなわち鍵全体の寸法精度を、親水性ポリマーを添加していない合成樹脂で鍵全体を構成した場合とほぼ同等に確保することができ、品質の低下を回避することができる。さらに、鍵本体部を木質で構成した場合には、鍵をアコースティックピアノに適用することが

できる。

[0012] 請求項4に係る発明は、請求項1または2に記載の鍵盤楽器の鍵において、鍵本体部は、親水性ポリマーを添加した第1の合成樹脂および親水性ポリマーを添加していない第2の合成樹脂の一方で構成され、押鍵部と一体成形されていることを特徴とする。

[0013] この鍵盤楽器の鍵によれば、鍵本体部および押鍵部が一体成形されるので、これらを別個の部品として製作する場合と比べて、工数を減らすことができ、その分、鍵の製作に要する時間を短縮できる。また、鍵本体部が親水性ポリマーを添加していない第2の合成樹脂で構成されている場合には、前述した理由により、鍵全体を、親水性ポリマーを添加した第1の合成樹脂のみで構成した場合と比べて、加工後の鍵本体部の寸法精度すなわち鍵全体の寸法精度を、親水性ポリマーを添加していない合成樹脂で鍵全体を構成した場合とほぼ同等に確保することができ、品質の低下を回避することができる。

図面の簡単な説明

[0014] [図1]本発明の一実施形態に係る鍵およびこれを適用した電子ピアノの鍵盤部の構成を示す断面図である。

[図2]白鍵の押鍵部および鍵本体部を示す分解斜視図である。

[図3]白鍵の押鍵部の構成を示す断面図である。

発明を実施するための最良の形態

[0015] 以下、図面を参照しながら、本発明の一実施形態に係る鍵盤楽器の鍵について説明する。図1に示すように、本実施形態の鍵は、鍵盤楽器としての電子ピアノ2に適用されたものであり、この電子ピアノ2は、その鍵盤部に、シャーシ3と、シャーシ3に回動自在に支持された白鍵1aおよび黒鍵(図示せず)からなる多数の鍵1(白鍵1aを1つのみ図示)と、鍵1ごとに設けられ、シャーシ3に回動自在に支持された多数のハンマー4(1つのみ図示)などを備えている。

[0016] シャーシ3は、前後の連結部材5、5などを介して棚板6上に固定されており、その前端部の上面には、2つの下限ストッパ3a、3aが、前後方向に間隔を存して取り付けられている。各下限ストッパ3aは、鍵1の下方への回動を規制するためのものであり、

フェルトで構成されている。また、シャーシ3の前端部の下面には、2つの上限ストッパ3b、3bが、下限ストッパ3a、3aに対応する位置にそれぞれ取り付けられている。これらの下限ストッパ3a、3aはそれぞれ、鍵1およびハンマー4の上方への回動を規制するためのものであり、フェルトで構成されている。さらに、シャーシ3の後端寄りの部分には、鍵スイッチ7が鍵1ごとに取り付けられている。

[0017] ハンマー4は、その後端寄りの部分がシャーシ3に回動自在に支持され、後端の押圧部4aが、鍵スイッチ7に上方から対向しているとともに、前端部にウエイト4bを有している。このウエイト4bにより、ハンマー4は、図中の反時計回りに付勢され、それにより、離鍵状態(図1に示す状態)では、押圧部4aが、後述する鍵本体部10のアクチュエータ部10cに常に当接する状態に保持される。

[0018] 本実施形態の鍵1では、白鍵1aおよび黒鍵はほぼ同様に構成されているので、以下、白鍵1aを例にとって説明する。白鍵1aは、図1、2に示すように、鍵本体部10と、鍵本体部10の上面に取り付けられた押鍵部11とを備えている。鍵本体部10は、第2の合成樹脂としてのアクリロニトリルブタジエンスチレン樹脂(ABS樹脂)の成形品で構成されており、前後方向に延び、後端部には、回動軸10aが設けられている。この回動軸10aは、左右方向(図中の奥行き方向)に延びるとともに、シャーシ3の軸受部3cに回動自在に取り付けられており、それにより、鍵本体部10は、シャーシ3に回動自在に支持されている。

[0019] また、鍵本体部10には、L字状のストッパ部10b、10bおよびアクチュエータ部10cが設けられている。このアクチュエータ部10cには、離鍵状態では、前述したように、ハンマー4の押圧部4aが下方から当接しており、それにより、ストッパ部10bは、上限ストッパ3bに当接した状態に保持される。また、押鍵時には、白鍵1aが、回動軸10aを中心として下限ストッパ3aに当接する位置まで反時計回りに回動し、アクチュエータ部10cが押圧部4aを下方に押圧する。これに伴い、ハンマー4が時計回りに回動するとともに、押圧部4aが鍵スイッチ7を押下し、オン動作させる。その結果、鍵スイッチ7は、発音動作を行うためのオン信号を発音回路部(図示せず)に出力する。

[0020] 一方、押鍵部11は、断面L字状で、上カバー部11Aおよび前カバー部11Bを一体に形成したものであり、この上カバー部11Aは、鍵本体部10の上面と同様の平面形

状を有し、接着剤(例えば酢酸ビニル系接着剤)を介して、鍵本体部10の上面に取り付けられている。また、前カバー部11Bは、鍵本体部10の前面と同様の平面形状を有し、接着剤を介して、鍵本体部10の前面に取り付けられている。また、図3に示すように、この押鍵部11は、第1の合成樹脂としてのABS樹脂のベース11bと、その内部に分散した状態で添加された多数の粒子状の親水性ポリマー11aで構成されている。

[0021] この親水性ポリマー11aは、その粒径が数百nm単位のポリオキシエチレン鎖を有する架橋ポリアクリルアミドで構成されており、良好な吸水性を備えている。この親水性ポリマー11aは、アクリルアミド、N-メチロールアクリルアミド、2-ヒドロキシエチルメタクリレートおよびアクリル酸をモノマーとして用い、ポリ(オキシエチレン)メタクリレートを分散安定剤として用い、さらに、親水性有機溶媒を分散媒として用いた分散重合により生成されたものである。

[0022] また、親水性ポリマー11aは、押鍵部11の内部ではベース11b内にほぼ均一に分散している一方、押鍵部11の表面側の部分では、その表面に偏在している。これは、押鍵部11を、親水性ポリマー11aをABS樹脂の原料に混入させながら成形加工した際、親水性ポリマー11aの特性に起因して発生する事象である。

[0023] 以上のように構成された本実施形態の鍵1によれば、4wt%程度の吸水率を得られることが実験により確認できた。すなわち、押鍵部11が親水性ポリマー11aを添加したABS樹脂で構成されているので、多孔性粒子をアクリレート樹脂に添加した従来の鍵(吸水率1.5wt%)よりも良好な吸水性を確保することができ、それにより、より良好な演奏性を確保することができる。これは、一般に、親水性ポリマーが、その親水基で水分を捕捉・吸収するものであるため、水分を気孔によって物理的に捕捉・吸収する多孔性粒子と比べて、より良好な吸水能力を備えていることに起因する。これに加えて、本実施形態の鍵1では、前述したように、親水性ポリマー11aが、その特性に起因して押鍵部11の表面側に偏在するように構成されるので、良好な吸水性をより効果的に得ることができる。

[0024] また、鍵本体部10および押鍵部11がいずれも、ABS樹脂で構成されているので、良好な耐久性および加工性を確保でき、さらに、天然象牙を貼り付けた鍵に近い外

観を確保することができる。その結果、高い商品性を確保できる。また、押鍵部11を、鍵本体部10と別個の部品として製作することができるので、鍵1全体を1種類の合成樹脂の一体成形により製作する場合と比べて、親水性ポリマー11aの添加量を減らすことができ、その分、製造コストを削減することができる。

[0025] また、鍵1全体を、親水性ポリマー11aを添加したABS樹脂で構成した場合、その寸法が親水性ポリマー11aの吸水状態に起因して伸縮することで、加工後の寸法精度を確保するのが難しくなり、その結果、雑音が生じるなどの、品質の低下を招くおそれがある。これに対して、本実施形態の鍵1によれば、押鍵部11のみを親水性ポリマー11aを添加したABS樹脂で構成すればよいので、加工後の鍵本体部10の寸法精度すなわち鍵1全体の寸法精度を、鍵1全体を親水性ポリマー11aを添加していないABS樹脂で構成した場合とほぼ同等に確保することができ、品質の低下を回避することができる。

[0026] なお、実施形態は、親水性ポリマーとして、ポリオキシエチレン鎖を有する架橋ポリアクリルアミドを用いた例であるが、親水性ポリマーはこれに限らず、主鎖および側鎖に親水基を備えたポリマーであればよい。例えば、親水性ポリマーとして、ポリビニルアルコール/ポリアクリル酸系ポリマーを用いてもよい。

[0027] また、実施形態は、本発明を電子ピアノの鍵に適用した例であるが、本発明の鍵はこれに限らず、アコースティックピアノなどの様々な鍵盤楽器に適用可能であることは言うまでもない。

[0028] さらに、実施形態は、押鍵部11のベース11bおよび鍵本体部10をABS樹脂で構成した例であるが、これらをアクリロニトリルスチレン樹脂またはアクリル樹脂で構成してもよい。このようにした場合、ABS樹脂を用いた場合と同様に、良好な耐久性および加工性を確保できるとともに、天然象牙を貼り付けた鍵に近い外観を確保することができる。さらに、押鍵部11のベース11bおよび鍵本体部10をそれぞれ、ABS樹脂、アクリロニトリルスチレン樹脂およびアクリル樹脂のうちの、互いに異なる材質で構成してもよい。

[0029] 一方、鍵本体部10を木質材で構成してもよい。このようにした場合、鍵1をアコースティックピアノに適用することができる。

[0030] また、実施形態は、押鍵部11および鍵本体部10を別個の部品とした例であるが、これらを一体成形することにより、鍵1を製作するようにしてもよい。その場合、親水性ポリマーを、押鍵部11のみに添加してもよく、鍵1全体に添加してもよい。このようにした場合、押鍵部11および鍵本体部10を別個の部品として製作する場合と比べて、工数を減らすことができ、その分、鍵1の製作時間を短縮できる。

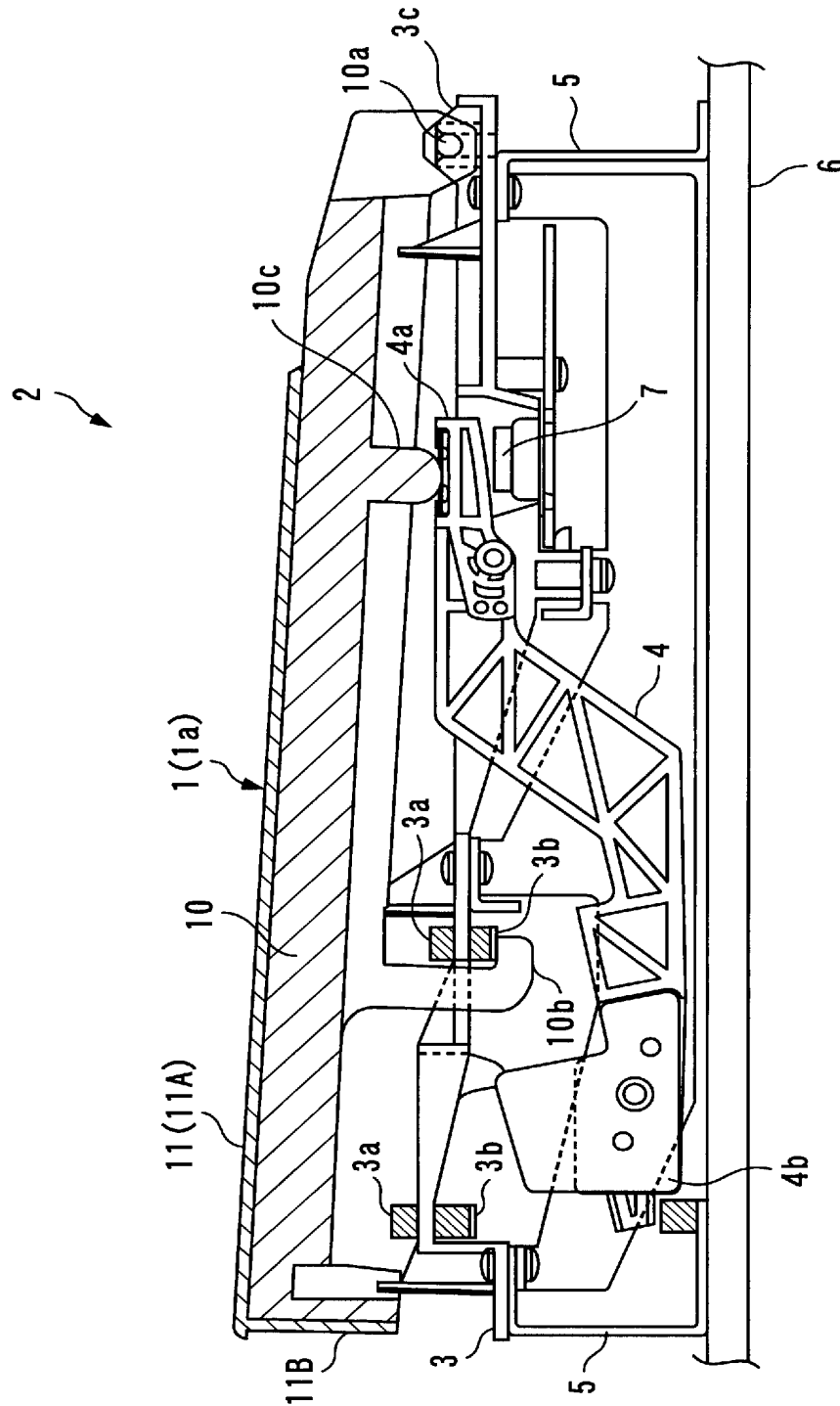
産業上の利用の可能性

[0031] 以上のように、本発明に係る鍵盤楽器の鍵は、合成樹脂を用いながらも、指先が演奏中に滑りにくく、良好な演奏性を有する鍵として有用である。

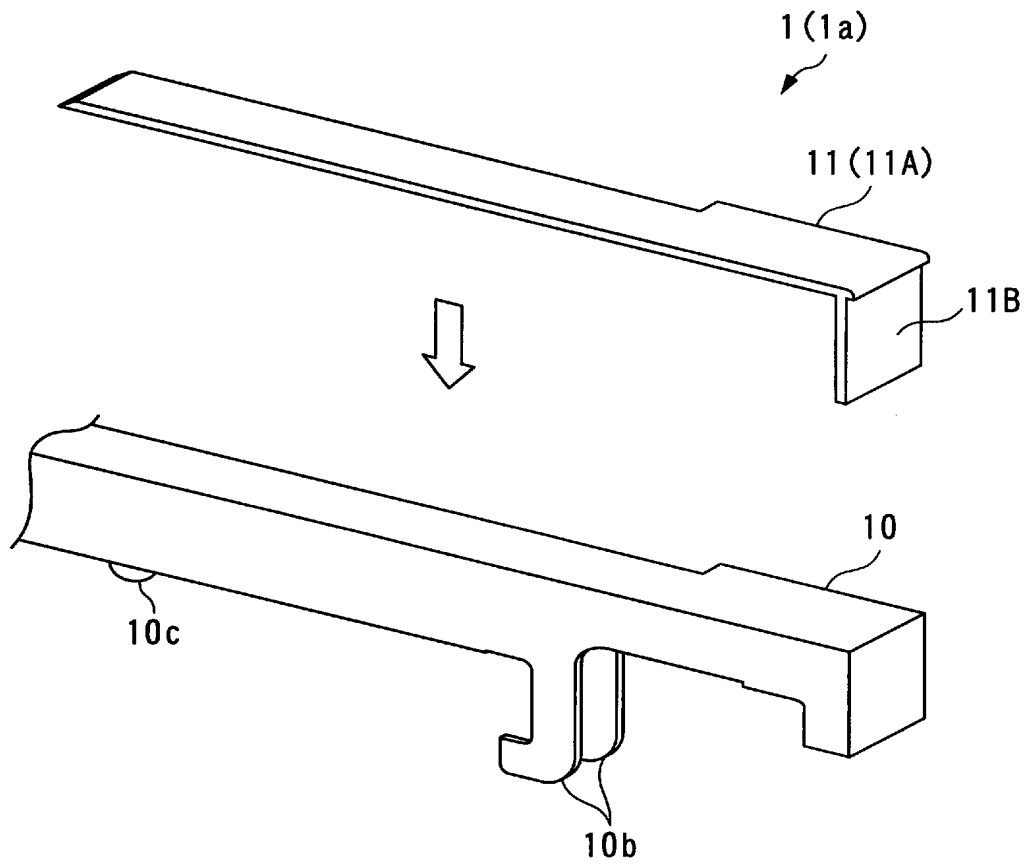
請求の範囲

- [1] 鍵本体部と、
当該鍵本体部の上部に設けられ、親水性ポリマーを添加した第1の合成樹脂で構成され、押鍵するための押鍵部と、
を備えることを特徴とする鍵盤楽器の鍵。
- [2] 前記第1の合成樹脂は、アクリロニトリルブタジエンスチレン樹脂、アクリロニトリルスチレン樹脂およびアクリル樹脂の1つであることを特徴とする請求項1に記載の鍵盤楽器の鍵。
- [3] 前記鍵本体部は、前記親水性ポリマーを添加していない第2の合成樹脂および木質の一方で構成され、前記押鍵部は、前記鍵本体部に接着されていることを特徴とする請求項1または2に記載の鍵盤楽器の鍵。
- [4] 前記鍵本体部は、前記親水性ポリマーを添加した前記第1の合成樹脂および前記親水性ポリマーを添加していない第2の合成樹脂の一方で構成され、前記押鍵部と一体成形されていることを特徴とする請求項1または2に記載の鍵盤楽器の鍵。

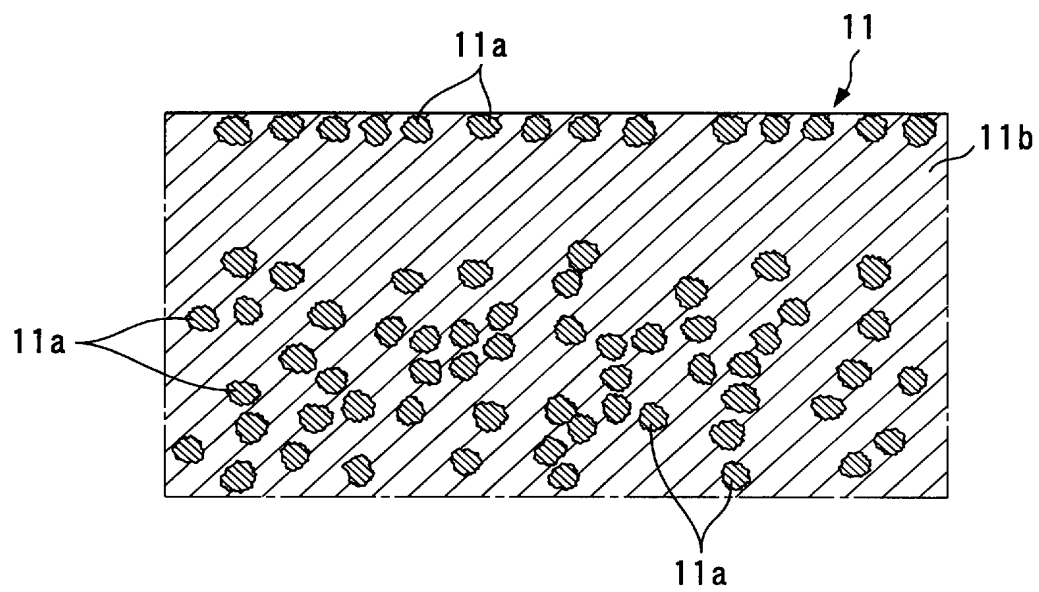
[図1]



[図2]



[図3]



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2005/002480

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

Int.Cl⁷ G10B3/12, G10C3/12, G10H1/34

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

Int.Cl⁷ G10B3/12, G10C3/12, G10H1/34

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Jitsuyo Shinan Koho 1922-1996 Jitsuyo Shinan Toroku Koho 1996-2005

Kokai Jitsuyo Shinan Koho 1971-2005 Toroku Jitsuyo Shinan Koho 1994-2005

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X Y	JP 62-158757 A (Nippon Gakki Co., Ltd.), 14 July, 1987 (14.07.87), Page 1, left column, lines 17 to 18; page 2, upper left column, line 18 to lower left column, line 4 (Family: none)	1, 2 3, 4
Y	JP 7-44156 A (Yamaha Corp.), 14 February, 1995 (14.02.95), Column 1, lines 26 to 28, 40 to 42, column 2, lines 32 to 35 & US 5559297 A column 1, lines 14 to 17, 40 to 41; column 2, lines 11 to 14, 40 to 46	3, 4



Further documents are listed in the continuation of Box C.



See patent family annex.

* Special categories of cited documents:

"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance

"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date

"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)

"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means

"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention

"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone

"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art

"&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search

25 April, 2005 (25.04.05)

Date of mailing of the international search report

17 May, 2005 (17.05.05)

Name and mailing address of the ISA/

Japanese Patent Office

Authorized officer

Facsimile No.

Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2005/002480

C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y	JP 63-237096 A (Takashi MATSUURA), 03 October, 1988 (03.10.88), Page 2, upper left column, line 15 to upper right column, line 6 (Family: none)	3

A. 発明の属する分野の分類 (国際特許分類 (IPC))

Int.Cl.⁷ G10B3/12, G10C3/12, G10H1/34

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料 (国際特許分類 (IPC))

Int.Cl.⁷ G10B3/12, G10C3/12, G10H1/34

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	1922-1996年
日本国公開実用新案公報	1971-2005年
日本国実用新案登録公報	1996-2005年
日本国登録実用新案公報	1994-2005年

国際調査で使用した電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語)

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
X Y	JP 62-158757 A (日本楽器製造株式会社) 1987.07.14, 第1頁左欄 第17行-第18行、第2頁左上欄第18行-左下欄第4行 (ファミリー なし)	1, 2 3, 4
Y	JP 7-44156 A (ヤマハ株式会社) 1995.02.14, 第1欄第26行-第28 行、第1欄第40行-第42行、第2欄第32行-第35行 & US 5559297 A, 第1欄第14行-第17行、第1欄第40行-第41行、 第2欄第11行-第14行、第2欄第40行-第46行	3, 4

☒ C欄の続きにも文献が列挙されている。☐ パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの
「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの
「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献 (理由を付す)
「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの
「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの
「&」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

25.04.2005

国際調査報告の発送日

17.5.2005

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/JP)
郵便番号100-8915
東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)

小宮 慎司

5C

9567

電話番号 03-3581-1101 内線 3541

C (続き) 関連すると認められる文献		
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
Y	JP 63-237096 A (松浦隆史) 1988. 10. 03, 第 2 頁左上欄第 15 行-右上欄第 6 行 (ファミリーなし)	3